

第10回核燃料サイクル協議会における青森県知事ご要請に対する回答（概要）

はじめに

- 6/17 サイクル協議会で、県知事から4項目のご要請あり、対応策について取りまとめたので、本日も報告する。

青森県知事ご要請

- ① 国内外の知見を結集し、スケジュールにこだわることなく、じっくりと腰を据えてアクティブ試験に臨むこと
- ② 様々な取り組みがより効果的に機能するよう、各部署の有機的な連携構築に努めること
- ③ 常に安全確保を最優先し、建設型から運転・保守優先型への企業体質の変革を実現すること
- ④ これまでのトラブルを十分精査し、トラブル対応に万全を期すこと

1. ガラス固化試験への取り組み【青森県知事ご要請①への対応】

国内技術

(1) 国内の専門的知見の活用

- ガラス分野、熔融炉分野などの専門家、学識経験者を集めた「ガラス固化技術研究評価委員会」の意見をj得る。レンガ材料の専門家からの助言をj得る。

(2) 研究開発機関との連携

- 日本原子力研究開発機構（JAEA）から当社への技術者の派遣。JAEA において、小型熔融炉を用いた模擬試験、六ヶ所再処理工場から送った不溶解残渣の試料の分析、実規模モックアップ試験施設（KMOC）での運転習熟やデータの補強。

国外技術

(1) 独国：カールスルーエ研究所

- 熔融炉の制御に関する技術について情報取得、研究委託。

(2) 米国：カソリック大学ガラス研究所

- ガラス素材の研究などの分野で情報取得、研究委託。

(3) 仏国：アレバ社

- 広範囲のテーマに関して包括的な協力関係を維持する契約を締結しており、必要に応じて助言・支援をj得る。

2. 各部署の有機的な連携の構築【青森県知事ご要請②への対応】

(1) 再処理事業部特命担当による指導、助言

- 長年サイクル技術の開発、安全管理に携わった経験を有する役員を「再処理事業部特命担当」に任命。事業全体を俯瞰しての指導、助言をj得て、中間管理職の視点、思考を広げる。

(2) コミュニケーションの改善

- 再処理事業部トップは中間管理職との十分なコミュニケーションを図り、重要な指示の書面化、議論の時間の確保、毎朝開かれる連絡会などでの意見交換の活発化、「報告・連絡・相談」の定着化を実施。
- これらの実効性を社長がマネジメントレビュー（四半期毎）で確認。

(3) 業務フロー図の充実化

- 特に他部署との連携部分が見える化することで組織的な事業部運営を実現。

3. 企業体質の変革【青森県知事ご要請③への対応】

(1) 運転・保守優先型の組織に改正

- 運転部門、保守部門の連携強化、安全管理機能の集約強化など。

(2) 中間管理職のマネージメント力の向上

- 部長、課長が一堂に集り、外部講師の指導の下、テーマを決めてディスカッション。
- 他企業にて現場でのマネージメント実践状況の視察や意見交換。

(3) 現場作業の技能レベルの向上

- 設備点検において、技能レベルの高い人材を計画的に確保し、集中的に点検・保守を行うことで、工場全体の安全確保・安定運転につなげる。

4. トラブルの再発防止の徹底【青森県知事ご要請④への対応】

(1) トラブルの再発防止のための体制整備

- トラブル精査の結果を踏まえて、トラブル事例集や社内規定類を充実。
- 過去に実施した類似の作業を顧みて「万が一」を想定した作業計画の立案。
- 上記2点を確実なものとするため、現場作業に精通した「安全技術担当」を各課に設置。

(2) 個々人のリスク察知能力の向上

- 過去のトラブル事例と多重防護の観点からのリスクアセスメントを通じて、リスク評価の技術を向上させる教育。
- 保安規定やマニュアルの根拠、解釈などの教育。